

全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

■番外編「残された人々」

東京電力福島第一原発の所長だっ

た吉田昌郎は、政府事故調査・検証

委員会の聴取に、事故がもたらす最

悪の被害を「東日本壊滅」と述べて

いる。事故は周辺地域に深刻な環境

汚染をもたらしたが、幸い東日本壊

滅には至らなかった。吉田の想像し

た事態とは具体的にどのようなもの

だったのか。

2011年3月15日朝、第一原発

2号機は原子炉格納容器の圧力が高

まり、損傷する可能性が高まってい

た。損傷した格納容器から大量の放

射性物質が放出されると、周辺の放

射線量が上昇して注水作業や電源復

旧作業が困難となり、第一原発を故

棄せざるを得なくなる。原発を放棄

すれば4号機燃料プールの水が蒸

6

被害拡大回避は偶然

発、使用済み核燃料が溶融して、故

び出される放射性物質の量はチェルノ

ビコまでのイメージは原子力委員

会の委員長だった近藤駿介が

空に損傷が起きたとみられ、最も多

くの放射性物質を放出したが、吉田

ナリオと同様だ。近藤の想

定では第一原発から170ギ

ャクは住民の強制移転が必要と

なる。だが吉田の想像はそれ

を上回る。放出された大量の

放射線物質が12ギ南の第二原

子炉に降り注ぎ、ようやく冷温

停止にき着けた4基の原子

炉も放棄せざるを得なくな

る。そうなれば首都圏も避難

場が頑張ってくれたと、その西

にものだった。

リスクの備え必要

4号機では、機器交換のため原子炉

電力川内(せんだい)原発1、2号

機が新たな規制基準に適合するこ

とされていた。この水が偶然、水位の

低下した燃料プールに流れ込んだこ

とで燃料がむき出しになる事態を免

れたとみられている。

2号機は格納容器下部の圧力抑制

する一方、「リスクはゼロとは申し

あげない」と述べ、基準に適合した

る一方、リスクはゼロとは申し

あげない」と述べ、基準に適合した

る一方、リスクはゼロとは申し

あげない」と述べ、基準に適合した

る一方、リスクはゼロとは申し

あげない」と述べ、基準に適合した

る一方、リスクはゼロとは申し

あげない」と述べ、基準に適合した

る一方、リスクはゼロとは申し

あげない」と述べ、基準に適合した

る一方、リスクはゼロとは申し

あげない」と述べ、基準に適合した

る一方、リスクはゼロとは申し

進

は

は

は

は

は

は

は

は

近藤駿介、原子力委員会委員長

が想定した「最悪のシナリオ」

2011年

3月31日

170km圏内:強制移転

250km圏内:移転容認

1号機の原炉で水素爆発

注水不能、格納容器破損

内:放射線量上昇、作業員

4号機プールの燃料露出、溶融

2、3号機の格納容器破損

1〜3号機プールの燃料溶融

170km圏内:強制移転

250km圏内:移転容認

注水不能、格納容器破損

内:放射線量上昇、作業員

4号機プールの燃料露出、溶融

2、3号機の格納容器破損

1〜3号機プールの燃料溶融

なげ最悪の事態は回避でき

たのか。定期検査中だった

事故から3年半の今年9月、九州

共同通信 太田久史「おわり

このかが問われている。(敬称略)

スクから目をそらさず、どう向き合

なる可能性はゼロではない。そのリ

にも回避された最悪の事態が現実と

ある種の幸運な偶然も重なった。現

在も放棄せざるを得なくな

る。そうなれば首都圏も避難

場が頑張ってくれたと、その西

にものだった。

うものだった。

なげ最悪の事態は回避でき

たのか。定期検査中だった

事故から3年半の今年9月、九州

共同通信 太田久史「おわり

このかが問われている。(敬称略)